

選定された種・群落のなかで代表的なものの解説 植物(維管束植物) (1/4)

種子植物

キク科

フジバカマ

Eupatorium japonicum

奈良県 絶滅種

近畿地方 絶滅危惧種A

環境省 準絶滅危惧

秋の七草の1つとしてよく知られている。生育地は、河原などの湿っていて時折流水などで攪乱されるような環境である。かつては日本各地に群生していたが、河川改修などにより生育環境が消失するとともに姿を見なくなった。「フジバカマ」と称する植物が、一般に園芸用として入手できるが、ほとんどの場合は本種でなく、同属他種または本種との雑種である。

三重県RDB：絶滅危惧ⅠA類
滋賀県RDB：要注目種
京都府RDB：絶滅寸前種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類

写真なし

シダ植物

サンショウモ科

サンショウモ

Salvinia natans

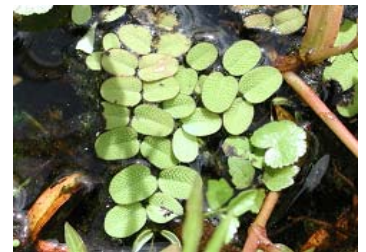
奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種C

環境省 準絶滅危惧

浮遊性の一年生小型の水草である。5~10cmの茎に楕円形の浮葉を対生状につける。ため池や水田などの水面が生育地であるため、化学肥料、化学合成農薬の使用による水質の悪化やため池の管理放棄などによる里地環境の荒廃が原因で、個体数が激減している。

三重県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
滋賀県RDB：要注目種
京都府RDB：絶滅寸前種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠB類



写真提供：尾上聖子

種子植物

モクレン科

オオヤマレンゲ

Magnolia sieboldii ssp. *Japonica*

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種B

環境省 ー

県内では主としてシラビソ林の林縁で、適度な明るさに恵まれたところに生育する落葉低木一亜高木である。6月下旬から7月中旬に、径5~10cmで芳香のある白色の花を下向きに咲かせる。大峰山脈の山稜部に比較的多く自生しているものの、生育地は局限されており、近年はニホンジカの食害を受けて枯死する個体がきわめて多い。

国指定天然記念物：オオヤマレンゲ自生地（吉野郡天川村北角、五條市大塔町篠原）



写真提供：森本範正

種子植物

キンポウゲ科

フクジュソウ

Adonis ramosa

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種C

環境省 ー

温帯の山地の落葉樹の下層や畑地の畦などに生育し、3、4月頃に黄金色の花を咲かせる。正月の飾り花によく用いられ、多数の園芸品種が存在するが、野生種の個体数は少なく、分布地も限定されている。

県指定天然記念物：ふくじゅ草の自生地（五條市西吉野町津越、檜川迫）
三重県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
滋賀県RDB：分布上重要種
京都府RDB：絶滅寸前種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠB類



写真提供：尾上聖子

選定された種・群落のなかで代表的なものの解説 植物(維管束植物) (2/4)

種子植物

キンポウゲ科

カザグルマ

Clematis patens

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種C

環境省 準絶滅危惧

林縁に生える落葉性のつる草で、5、6月頃に淡紫色又は白色の8枚の萼片の花を咲かせる。園芸用の採取などにより個体数が減少し、宇陀山地と大和高原にわずかに自生している。県内産地の多くは民家の屋敷内に生育しており、住民によって保護されているが、園芸種であるクレマチスとの交雑が憂慮される。

国指定天然記念物：カザグルマ自生地（宇陀市大宇陀区小附）
三重県RDB：絶滅危惧ⅠB類
滋賀県RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠA類



写真提供：菅沼孝之

種子植物

ユキノシタ科

キレンゲショウマ

Kirengeshoma palmata

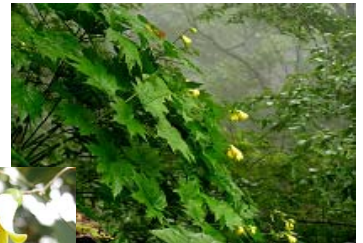
奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種A

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

産地が冷温帯の石灰岩地に限られ、水はけの良い落葉樹林が発達する岩礫の多い林内に生育し、高さ1m内外になる大型の多年草である。7～8月に淡黄色でラッパ状の美しい花を咲かせる。園芸用の採取やニホンジカによる食害のため、産地が局限されるとともに、個体数が極めて減少している。

国指定天然記念物：キレンゲショウマ自生地（宇陀市大宇陀区小附）
三重県RDB：絶滅危惧ⅠB類
滋賀県RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠA類



写真提供（上）：森本範正
（左）：平 恵子

種子植物

バラ科

オオヤマザクラ

Prunus sargentii

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 —

環境省 —

大峰山脈と大台ヶ原にごくわずかに産するのみで、産地、個体数ともに非常に少ない。淡紅色または淡紫紅色の一重の花を咲かせる。花や葉がヤマザクラより大きいことから命名されたといわれる。寒冷期の遺存種とみられ、旺盛に繁殖することは期待できない。本州における分布の南限である。

国指定天然記念物：オオヤマザクラ自生地（宇陀市大宇陀区小附）
三重県RDB：絶滅危惧ⅠB類
滋賀県RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠA類



写真提供：森本範正

種子植物

ジンチョウゲ科

チョウセンナニワズ

Daphne pseudo-mezereum var. *koreana*

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種B

環境省 絶滅危惧Ⅱ類

高さ1～1.5mで枝分かれの多い落葉小低木である。石灰岩地のアスナロ林やヒノキ人工林内にごくわずかに生育している。大峰山脈の稜線沿いの石灰岩地にある落葉広葉樹林の疎林にも生育しているが、いずれも個体数は少ない。以前確認されていて、最近なくなったものもある。本州における分布の西南限である。

国指定天然記念物：チョウセンナニワズ自生地（宇陀市大宇陀区小附）
三重県RDB：絶滅危惧ⅠB類
滋賀県RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類
和歌山県RDB：絶滅危惧ⅠA類



写真提供：平 恵子

種子植物

サクラソウ科

オオミネコザクラ

Primula reinii var. *okamotoi*

大台ヶ原や大峰山脈の岩場で、山の湿った岩の隙間などに生育している。花茎の高さが4~12cm、葉の裂片がやや深く先が鋭くとがり、5月頃に1~7個の花をつける。産地、個体数ともにごくわずかであり、貧弱な株が多い。可憐な花であるため、山野草愛好家による採取が危険要因である。

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種A

環境省 -



写真提供：扇谷幹雄

種子植物

ユリ科

ヒメユリ

Lilium concolor

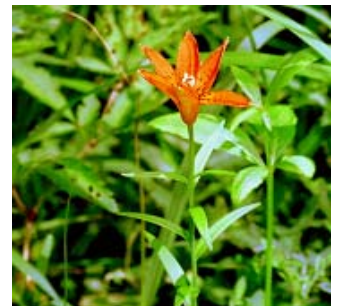
山地の明るい草原に自生し、花期は美しく目立つため、園芸用に採取されやすい。また草地が利用されなくなり、植生の遷移などにより自生地が激減している。県内での自生地は1ヶ所確認されているだけで、個体数も数十個体以下である。

三重県RDB：情報不足
京都府RDB：絶滅寸前種
大阪府RDB：絶滅危惧I類
和歌山県RDB：絶滅危惧I A類

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種A

環境省 絶滅危惧I B類



写真提供：森本範正

種子植物

ラン科

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

山地の林内、特にスギ林や竹やぶなどに群れて生育している。4~5月頃に径10cm程度の大型で淡黄緑色、袋状の花を咲かせる。園芸用の採取、森林の伐採や管理放棄による生育環境の悪化などが減少要因である。生育環境が限られ、個体数もわずかである。

三重県RDB：絶滅危惧II類
滋賀県RDB：絶滅危惧種
京都府RDB：絶滅寸前種
大阪府RDB：絶滅危惧I類
和歌山県RDB：絶滅危惧I B類

奈良県 絶滅寸前種

近畿地方 絶滅危惧種C

環境省 絶滅危惧II類



写真提供：尾上聖子

シダ植物

ヒカゲノカズラ科

スギラン

Lycopodium cryptomerinum

温帯上部から下部の、天然林の老木で苔むした樹幹であるとか、岩に着生する。茎がまばらに又状に分岐し、大きいものでは30cmを超えるものがある。生育環境が限られており、個体数が少ない。園芸用の採取や森林の伐採が減少の要因となる。

三重県RDB：絶滅危惧II類
滋賀県RDB：希少種
京都府RDB：絶滅危惧種
大阪府RDB：絶滅
和歌山県RDB：絶滅危惧I B類

奈良県 絶滅危惧種

近畿地方 絶滅危惧種B

環境省 絶滅危惧II類



写真提供：尾上聖子

種子植物

ヤマトグサ科

ヤマトグサ

Theligonum japonicum

奈良県 絶滅危惧種

近畿地方 -

環境省 -

山地の林内や林縁に生育し、金剛山では群生しているが、その他の場所ではほとんど見られなくなっている。高さ10~25cmで、4~5月頃に淡緑色の花をつける。雄花は多数の雄しべが垂れ下がり、3個の萼片が反り返っている。生育場所が限られており、森林の伐採や遷移の進行が減少の要因と考えられる。植物学者・牧野富太郎が日本人として初めて学名をつけた植物である。

三重県RDB：絶滅危惧 I B類
滋賀県RDB：分布上重要種
大阪府RDB：要注目
和歌山県RDB：絶滅危惧 I B類



写真提供：森本範正

種子植物

ユリ科

キジョウロウトトギス

Tricyrtis macranthopsis

奈良県 絶滅危惧種

近畿地方 絶滅危惧種 C

環境省 絶滅危惧 I B類

紀伊半島固有種で、主に水がしたたる河川や道路の岩崖地の壁面に垂下して生育する。9月末から10月初め頃に長さ3~4cmの鮮黄色の花を葉腋にひとつずつつける。県内では十津川村の一部にのみ自生がみられるが、道路工事による生育地の減少や、園芸用に採取されることによる個体数の減少が懸念される。

三重県RDB：絶滅危惧 I B類
和歌山県RDB：絶滅危惧 II 類



写真提供：尾上聖子

種子植物

マツ科

トガサワラ

Pseudotsuga japonica

奈良県 希少種

近畿地方 絶滅危惧種 C

環境省 絶滅危惧 II 類

全国的にも四国と紀伊半島の深山に産地が局限されている。県内でも、吉野川最上流部や十津川村玉置山などごくわずかな地域に限定され、個体数も多くない。川上村の三之公には純林に近い良い群落があり、奈良県を代表する群落としても選定している。

国指定天然記念物：三ノ公川トガサワラ原始林(吉野郡川上村神之谷)
三重県RDB：絶滅危惧 II 類
和歌山県RDB：絶滅危惧 II 類



写真提供 (上)：尾上聖子
(右)：森本範正



種子植物

バラ科

知足院ナラノヤエザクラ (ナラザクラ、ナラヤエザクラ)

Prunus leveilleana 'Antiqua'

奈良県 郷土種

近畿地方 -

環境省 -

東大寺塔頭・知足院の裏庭の八重桜は、植物学者・三好学博士が江戸時代の古書に基づき、古歌に詠われた名桜として、1922年に国の天然記念物に指定された。指定されたサクラは戦後枯死し、現在唯一ひこばえが後継樹として保護されている。サクラには雑種ができやすく、形質を継ぐ個体と判断される種が少ないところから、本種の純正な形質の保全を進める必要がある。

国指定天然記念物：知足院ナラノヤエザクラ(奈良市雑司町)
県の花 (昭和43年3月1日告示)



写真提供：県広報広聴課